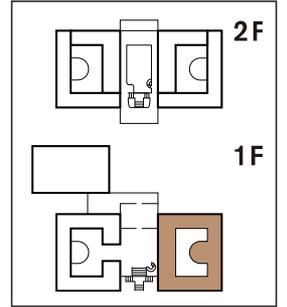


コレクションルーム

会場：本館 南回廊 1階

当館は開館以来、近代以降の「京都の美術」を収集してきました。現在までに、3,600点を越える総合的なコレクション（日本画、洋画、彫刻、版画、工芸、書）を形成していますが、とくに明治から昭和にかけての京都画壇の作家たちによる作品群には、近代の日本画を代表する名品が揃い、自他ともに認める優れたコレクションとなっています。

リニューアルオープンを機に、当館では新たにコレクションルームを新設します。京都の四季に合わせた年4回の展示替えによって、日本画の名品を中心として、各分野の季節感に溢れた作品などを多数紹介します。



コレクションルームが新設される本館南回廊1階 イメージ図



コレクションルーム イメージ図



天の中庭(イメージ図)では、屋外彫刻作品の展示も



秋期：竹内栖鳳《絵になる最初》1913年
重要文化財

コレクションルームの年間スケジュール

春期 2020年3月21日(土)～6月21日(日)

夏期 2020年6月25日(木)～9月22日(祝・火)

秋期 2020年9月26日(土)～11月29日(日)

冬期 2020年12月3日(木)～2021年3月14日(日)

「桜の芳文」と称された菊池芳文の代表作《春の夕べ・霜の朝》をはじめとした春爛漫の光景は岡崎公園の疏水に桜吹雪が舞う頃に。また、縁側で月を待つ後ろ姿の美人画《待月》をはじめとした「上村松園の芸術」は蒸し暑い祇園祭の頃に。重要文化財に指定されている竹内栖鳳の《絵になる最初》をはじめとした「竹内栖鳳の芸術」は美しい嵐山の紅葉の季節に。そして、木島桜谷《寒月》をはじめとした雪のなかの動物たちは北山に時雨が降る頃に展示します。

当館のコレクションルームでは、いつ京都を訪れば、見たい作品や再会したい名品に逢うことができるのかわかるよう、年間展示計画を事前に発表します。《春の夕べ・霜の朝》の桜の花に隠れる雀たち、《絵になる最初》で恥ずかしそうに視線を外す娘、《待月》の浴衣美人が持つ団扇のうさぎ、《寒月》の照る雪の竹藪を忍び足で歩く狐が、鑑賞者に会えるのを待っています。

いつ訪れても、京都らしい季節を感じることでできる新名所として、京都の美の世界をお楽しみください。



夏期：上村松園《待月》 1926年



春期：菊池芳文《春の夕・霜の朝》 1903年



冬期：木島桜谷《寒月》 1912年

